Nara National Museum

奈良国立博物館だより

第99号

平成28年 10・11・12月

正倉院宝物　浅緑地鹿唐花文錦大幡脚端飾

特別展
第68回
正倉院展
10月22日(土)～
11月7日(月)
東・西新館

特別陳列
おん祭と春日信仰の美術
12月10日(土)～
平成29年1月15日(日)
東新館

特集展示
新たに修理された文化財
～1月15日(日)
西新館

名品展
珠玉の仏教美術
12月10日(土)～平成29年1月9日(月・祝)
西新館

名品展
珠玉の仏たち
通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器
通期開催
青銅器館

第68回 正倉院展

10月22日(土)～11月7日(月)

本年の正倉院展には六十四件の宝物が出陳されます。正倉院宝物の全体が概観できるような内容となっておりますが、身の回りに用いる品々や仏教荘厳に用いられた品々、金属工芸品の充実ぶりが特筆されます。

聖徳太子と伝えられる貴人の肖像画でおなじみの笏は、古代より宮廷で用いられた威儀を正すための道具です。その形や素材には持つ人の位を表す役割がありました。本年は聖武天皇のご遺愛品である象牙製の笏と鯨の骨製の笏、そして下級官人が用いたのと同様の木製の笏という素材の異なる三枚の笏が出陳されます。また貴顕が腰に飾った刀子、象牙の櫛など、高価な素材と高度な技術の用いられた宝物は注目に値します。

法会の場を飾った幡は、今日でも寺院で使用されておりますが、聖武天皇の一周忌斎会の場を飾った大幡は、一際大きく豪華なものでした。本年はこれを構成していた部材が勢揃いし、その偉容が展示室に甦ります。また金属製の幡などに使われたと思われる鈴や玉からは、様々な工夫をして華やかな場を演出しようとした人々の創意・工夫がうかがえます。

このほか、今回初めて公開される和同開珎や神功開宝といった銭貨、合金の材料に用いられたと考えられるアンチモンの鋳塊など、古代の金属工芸技術を伝える宝物も大変興味深いものです。

大魚骨笏

牙櫛(その一)

アンチモン塊

瑠璃玉付玉

大幡脚

和同開珎

(写真はすべて正倉院宝物)

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

―特集　奈良奉行所のかかわり―

12月10日(土)～平成29年1月15日(日)

春日若宮おん祭は、保延二年(一一三六)に始まったとされます。その後、祭日は変わっても、祭礼は絶えることなく現代まで続き、今年で八八一回を迎えます。おん祭では、春日社の若宮神が御旅所に一日だけ遷座されますが、そこに芸能者や祭礼の参加者が詣でる風流行列が有名です。

本展覧会は、おん祭の歴史と祭礼の様子を展示する、恒例の企画です。今回は、華やかな風流行列の様子を描く絵巻を多く展示するとともに、江戸時代のおん祭を支えた奈良奉行所のかかわりを示す資料をご紹介します。

春日鹿曼荼羅（奈良・東九条春日講）

春日若宮御祭礼絵巻　中巻(奈良・春日大社)

特集展示

新たに修理された文化財

12月23日(金・祝)～平成29年1月15日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、絵画・彫刻・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示は、近年修理を受けた収蔵品の中から選りすぐった作品を展示公開し、あわせてその修理内容をパネルで紹介するものです。

国宝 刺繍釈迦如来説法図(勧修寺繍帳)(当館)の修理の様子

話題

中国・河南省の石窟寺院を訪ねて

当館学芸部情報サービス室長　岩井共二

今年の八月上旬、河南博物院（河南省鄭州市）との学術交流で、中国に派遣され、中国・河南省の石窟寺院を見学させていただく機会に恵まれた。河南省には、世界遺産の洛陽・龍門石窟をはじめとして、岩壁に穴を掘って仏像を彫り出した石窟寺院がいくつも存在し、中国仏教美術史上重要な文化遺産として知られている。中国では、長い歴史の中で、災害や戦乱、廃仏によって、多くの仏像が姿を消した。木造仏は焼かれ、塑像や乾漆像は崩れ去り、銅の仏は溶かされて貨幣などに姿を変えた。しかし石の仏は、その堅牢な材質ゆえに、多くの数が残されている。中国では、近年のめざましい都市開発によって、地中から多くの石仏が発見され、石仏の数が増えてきた。しかし、これらの石仏以上に石窟の価値として重要なのは、造られた場所に刻まれている当初から場所を移動しないということだ。石窟は、造られた「場」との関係を確実に有し、制作地域の様式を間違いなく示している。だから重要なのである。石窟は基本的に移動しない。だから現地まで見に行かなければならない。写真や図面では実感できない大きさや空間を体感したい。そう意気込んで中国に渡った。

今回訪れた石窟の一つに、洛陽から八〇キロほど東にある鞏義石窟寺（鞏県石窟寺とも言う）がある。北魏代（六世紀前半）に造られた優美な仏像が数多くある石窟で、以前から行ってみたかったところだ。

今回は河南省の省都・鄭州からこの石窟に向かった。ところが目的地に近づけども、仏像がありそうな岩山なんかどこにも見当たらない。この辺りは黄河の流域で、一帯は、黄土色の粘土質の土地ばかり。こんな場所のどこに、石窟寺院があるのだろうか。そう思っている内に、突然目的地に着いた。目の前には、同じような土の崖が見えるだけだ。しかし、その山の崖のふもとに、目的の石窟はあった。そこだけ岩壁が露出しており、石室が彫られ、びっしりと磨崖仏（レリーフの仏像）が刻まれていた。この石窟だけで分厚い美術本一冊が刊行されるほど多くの石仏が彫られているが、規模的には拍子抜けするほど小さい。

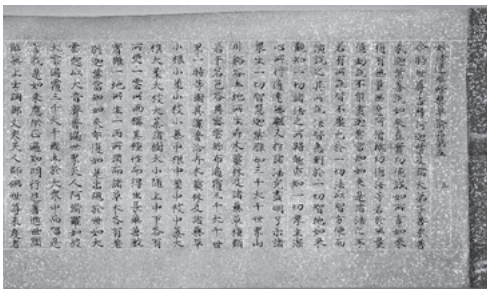
中国・河南省鞏義市石窟寺　崖の下の屋根で覆われた所に石窟は存在する。

河南省にある石窟寺院は、龍門石窟を除くと、どれも小規模である。それもそのはず、大規模な石窟を造れる岩山がそこら中にあるわけではないのだ。一方で岩壁があれば仏像があるかというとそうでもない。河南省には、少林寺拳法で有名な少林寺があり、その近くには嵩山という立派な岩山があるが、ここに石窟はない。要するに「どこにでもあるもの」ではないのだ。

中国全土には有名な敦煌莫高窟など、石窟寺院が各地に存在している。そこに刻まれている仏像の数を全部数えたら、膨大な数になるだろう。しかし、あの広大な中国の国土から見れば、それらは、ごくわずかな存在でしかない。それに、我々が見ることが出来る石窟の仏像は、かつて中国で造られた同時代の仏像（金銅仏や塑造仏など）の分量から見たら、氷山の一角にすぎない、稀少な遺物である。だから重要なのだ。専門家にとっては自明のことかもしれないが、ようやくたどり着いた石窟を前に、今さらながら、石窟寺院の貴重さを改めて思い知らされたのである。しかし、ただ有り難がっている場合ではない状況も目の当たりにした。窟内の雨漏りや水分による窟内の石質劣化らしき現象をいくつかの石窟で見かけた。昨今の大気汚染など環境の変化と関係があるのかどうかは知らない。しかし、これらの極めて貴重な文化遺産の保護活動は、待ったなしの状況が迫っているように思われた。

獅子(当館)

最勝曼荼羅(当館)



◉法華経巻第三(浅草寺)

出陳一覧

名品展 珠玉の仏たち

なら仏像館 ～12月25日(日)

【彫刻】

【第1室】

大将軍神坐像　当館
蔵王権現立像　当館
地蔵・龍樹菩薩坐像　当館
毘沙門天立像　当館
南無仏太子立像　当館

【第2室】

獅子　当館
◎獅子　当館
◉薬師如来坐像　当館
◎観音菩薩立像　本山寺
◎観音菩薩立像　細見美術財団

【第3室】

阿弥陀如来坐像　当館
宝冠阿弥陀如来坐像　安楽寿院
阿弥陀如来坐像　善福寺
阿弥陀如来立像　当館
阿弥陀如来立像　個人
阿弥陀如来立像　個人

【第4室】

◎菩薩立像　金竜寺
◎力士立像　当館
天部坐像　当館
薬師如来坐像　見徳寺
◎文殊菩薩坐像　薬師寺

【第5室】

◎誕生釈迦仏立像　正眼寺
誕生釈迦仏立像　当館
誕生釈迦仏立像　当館
◎誕生釈迦仏立像　悟真寺
如来立像　当館
◎菩薩立像　法起寺
◎菩薩半跏像　神野寺
◎観音菩薩立像　法隆寺
◎観音菩薩立像　観心寺
◎観音菩薩立像　金剛寺
観音菩薩立像　個人
二仏並坐像　当館
誕生釈迦仏立像　個人
観音菩薩立像　個人
十一面観音菩薩立像　個人
力士立像　個人
力士立像　個人
◎如来立像　光明寺
如来立像　当館
釈迦如来坐像　園城寺
◎薬師如来坐像　文化庁
大威徳明王騎牛像　当館
不動明王立像　当館
勢至菩薩立像　当館

【第6室】

◎阿弥陀如来立像(裸形)　浄土寺
◎釈迦如来立像　法明寺
如来立像　当館
天部立像　兵庫県
◉法華説相図　長谷寺
◎如来三尊像　当館
◎如来三尊像　個人
◎阿閦如来坐像　西大寺
阿弥陀如来坐像　歓喜寺
◎宝冠阿弥陀如来坐像　當麻寺
◎如意輪観音菩薩坐像　当館
薬師如来坐像　海住山寺

【第7室】

◎千手観音菩薩立像　妙法院
◎光背(二月堂本尊所用)　東大寺
◎十一面観音菩薩立像　勝林寺
◎十一面観音菩薩立像　新薬師寺
◎十一面観音菩薩立像　薬師寺
◎十一面観音菩薩立像　地福寺
◎千手観音菩薩立像　園城寺
◎十一面観音菩薩立像　元興寺

【第8室】

◎広目天立像　興福寺
◎増長天立像　当館
◎兜跋毘沙門天立像　当館
二天王立像　室生寺
◎降三世明王坐像　金剛寺

【第9室】

◎龍猛菩薩立像　泰雲院
地蔵菩薩立像　十市町自治会
◎地蔵菩薩立像　長命寺
◎明星菩薩立像　弘仁寺
◎地蔵菩薩立像　大福寺
地蔵菩薩立像　新薬師寺
◎准胝観音菩薩立像　文化庁

【第10室】

不動明王立像　当館
◎愛染明王坐像　当館
◎不動明王坐像　園城寺
五大明王像　当館
◎不動明王坐像　正寿院

【第11室】

十二神将立像(午神～亥神)　当館
四天王立像　現光寺
龍神像　薬師寺
狛犬　與喜天満神社
◎大津皇子坐像　薬師寺
男・女神坐像　当館
男神坐像　観音寺
童子形坐像　当館

【第12室】

◎阿弥陀如来立像(善光寺式)　善光寺
菩薩坐像　文化庁
帝釈天坐像　室生寺
◎十二神将立像(辰・未神)　室生寺

【第13室】

◎諸尊仏龕　個人
◎諸尊仏龕　寂照寺
吉祥天倚像　当館
地蔵菩薩立像　当館
僧形立像　当館
◎十一面観音菩薩立像　当館
十一面観音菩薩立像　当館
毘沙門天立像　大峯山寺
◎蔵王権現立像(五軀)　当館
破損仏像残欠コレクション

名品展 珠玉の仏教美術

西新館 12月10日(土)～平成29年1月9日(月・祝)

【絵画】

伊勢両宮曼荼羅　正暦寺
雨宝童子像　個人
熊野宮曼荼羅　聖護院
熊野本地仏曼荼羅　文化庁
◎生駒宮曼荼羅　当館
生駒宮曼荼羅　往馬大社
役行者像　上入田区
役行者像　当館
日吉山王垂迹神曼荼羅　曼殊院
◎吉野曼荼羅　西大寺
高野四所明神像　個人
三十番神像　個人
藤原鎌足像　当館
藤原鎌足像　談山神社
束帯天神像　長谷寺
富士参詣曼荼羅　矢田原第三農家組合
東大寺八幡縁起　東大寺
氷室神社縁起　氷室神社
最勝曼荼羅　当館

【書跡】

◉金光明最勝王経(紫紙金字)巻第六　当館
華手経　巻第十二〈五月一日経〉　当館
◎中阿含経　巻第九〈善光朱印経〉　当館
◉法華経　巻第三　浅草寺
◉法華経(一品経)　方便品第二　長谷寺
尊円親王叡山拝堂記　当館
◎青蓮院寺領目録(門葉記)　当館
◉日本書紀　巻第十(残巻)　当館
◉金光明経文句　巻下(智証大師関係文書典籍)　園城寺
◎染田天神講連歌関係資料　染田区

神像（金峯山経塚出土）（当館）

◎脇差 銘備州長船義景（談山神社）

【工芸】

牛皮華鬘　当館
尾長鳥文華鬘　当館
◎仏餉鉢　金剛峯寺
◎鉢　都々古別神社
金山寺香炉　当館
◎香盆　聖衆来迎寺
牡丹文香合　当館
獅子牡丹文香合　個人
◎釣燈籠　当館
◎山王十社本地懸仏　当館
十一面三尊懸仏　当館
熊野三所権現懸仏　個人
◎熊野十二社権現御正体　当館
◎四枚居木鞍　手向山八幡宮
◎海松円文鞍　手向山八幡宮
◎三鼓胴　手向山八幡宮
◎奚婁鼓胴　龍田神社
二帯笙　談山神社
笙　談山神社
太刀　銘義憲作　石上神宮
太刀　無銘　石上神宮
太刀　銘助宗　八幡神社
◎脇差　銘備州長船義景　談山神社
王子形水瓶　当館
王子形水瓶　当館
仙盞形水瓶　当館
仙盞形水瓶　当館
仙盞形水瓶　当館
布薩水瓶　当館
布薩水瓶（魚口形）　当館
信貴形水瓶　当館
信貴形水瓶　個人

【考古】

＊赤漆塗舟形木製品〔山形県小山崎遺跡出土〕
＊深鉢（綱取Ⅱ式）〔山形県小山崎遺跡出土〕
＊深鉢（新地式）〔山形県小山崎遺跡出土〕
＊火焔文土器〔山形県柴燈林遺跡出土〕
以上、遊佐町教育委員会
＊人面付銅戈〔伝・福岡県出土〕
＊銅戈鋳型〔伝・福岡市八田出土〕
＊磨製石剣〔伝・福岡県田川出土〕
以上、福岡市博物館
＊丹塗磨研土器〔城の原遺跡出土〕
＊丹塗器台〔那珂遺跡出土〕
＊貝輪〔金隈遺跡出土〕
＊貝輪〔諸岡遺跡出土〕
＊甕棺〔吉武遺跡出土〕
以上、福岡市埋蔵文化財センター
軒丸瓦・軒平瓦〔法隆寺出土〕　法隆寺
風鐸〔伝和歌山県上野廃寺出土〕　当館
隅木蓋瓦〔伝和歌山県上野廃寺出土〕　当館
六角形塼仏〔三重県天華寺跡出土〕　当館
火頭形三尊塼仏〔伝奈良県橘寺出土〕　当館
◎鬼面文鬼瓦〔伝奈良県大安寺出土〕　個人
◎山城忌寸真作墓誌　当館
◎佐井寺僧道薬墓出土品（墓誌・骨壺）　当館
銅製骨蔵器〔奈良県葛城市新庄町城山出土〕　当館
骨蔵器〔茨城県新治郡八郷町出土〕　当館
◎青磁牡丹唐草文深鉢〔奈良県正暦寺出土〕　正暦寺
銅板経〔奈良県金峯山経塚出土〕　当館
蔵王権現像および神像
〔奈良県金峯山経塚出土〕　当館
経筒等銅製品断片
〔奈良県金峯山経塚出土〕　当館
蔵王権現鏡像　等鏡像
〔奈良県金峯山経塚出土〕　当館
瑞花双鳳八稜鏡　等銅鏡
〔奈良県金峯山経塚出土〕　当館
◎鍍銀鏡箱・金銅経箱台残欠・経巻残欠　金峯神社
＊は考古資料相互活用促進事業による出品

※◉＝国宝、◎＝重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

名品展
中国古代青銅器（坂本コレクション）
青銅器館

中国古代の商（殷）から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

【表紙写真解説】

正倉院宝物
浅緑地鹿唐花文錦大幡脚端飾（あさみどりじしかからはなもんにしきのだいばんのきゃたんかざり）

南倉
縦四三・五cm　横四六・五cm

聖武天皇の一周忌斎会（さいえ）に際して掲げられた、大幡（だいばん）の脚の先に付けられた飾り。浅緑色の地に、白・黄・褐色・紫・濃緑の五色の色糸を用いて、中心に牝鹿（めじか）、その周囲に花文を織り出した錦である。下辺には紫地に小花文を表した錦で幅広の縁を取り付け、上縁は花形に裁つ。同文様の二枚を合わせて、大幡脚を挟んでいたもので、現在も脚に用いられた縹綾（はなだあや）の一部が上縁から覗いている。宝庫には鹿を主文様とする同種の脚端飾が数点伝わるが、いずれもかつて挟んでいた大幡脚の色は異なるようで、様々な色の織物を組み合わせて大幡を作り出していたことがうかがえる。壮麗な斎会の様子を想像させる品である。

田澤　梓（当館学芸部研究員）

◆奈良国立博物館賛助会

平成28年9月30日現在、一般会員（個人）48名、一般会員（団体）17団体、特別会員4団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。

◆キャンパスメンバーズ

平成28年9月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学部　（以上、五十音順）

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■10月16日（日）「世界の火葬から」
吉澤 悟（当館学芸部列品室長）
ギリシアやローマ、インドや日本など古代世界の様々な火葬墓、骨壺の事例を紹介します。

■11月20日（日）「平安時代の宮中仏事」
斎木 涼子（当館学芸部研究員）
平安時代、宮中では様々な年中行事が設けられましたが、そこには多くの仏事が含まれていました。天皇や貴族にとって重要であった仏事をとりあげます。

■12月18日（日）「仏像調査からわかること その4
－圓教寺奥乃院の諸尊－」
岩田 茂樹（当館学芸部上席研究員）
播磨の名刹書写山圓教寺の奥乃院は、同寺の開山である性空の肖像彫刻を祀る開山堂や、二棟の護法社等からなるエリアです。最近の調査で見いだされた奥乃院に安置される諸尊像を紹介し、その彫刻史における位置づけを考えます。

■平成29年1月8日（日）「海を渡った鏡」
中川 あや（当館学芸部主任研究員）
日本にもたらされた中国の唐鏡・宋鏡や、朝鮮半島にもたらされた日本の平安鏡など、海を渡って異国に運ばれた鏡と、その歴史的な背景について紹介します。

■平成29年2月19日（日）「法螺話」
清水 健（当館学芸部工芸考古室長）
法螺は山伏が儀式などの際に高らかに吹くことでよく知られておりますが、仏教との関わりはそれだけではありません。日本の仏教と法螺との関わりについてお話致します。

■平成29年3月19日（日）
「奈良県技師が生んだ名建築
仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の魅力」
宮崎 幹子（当館学芸部資料室長）
奈良国立博物館の隠れた名建築、仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）について見どころをご紹介します。建築家の創意工夫のつまったこの建築の魅力を再発見してみましょう。

【時　間】各回とも14：00～15：30（13：30開場）
【会　場】当館講堂
【定　員】194名（先着順）

◎サンデートークの入場整理券の配布場所が変わりました
＊12：30から当館講堂前にて入場整理券（お1人様につき1枚）を配布します。
＊配布はトーク開始30分後で終了します。

❖ ボランティア解説 ❖

「正倉院展のみどころ」

正倉院展会期中、当館ボランティアがスライドを使用して展覧会のみどころを分かりやすく解説いたします。ご鑑賞にあわせて、ぜひお立ち寄りください。

◆会期中毎日　①10:00～　②11:00～　③12:00～
④13:30～　⑤14:30～
※10/22、10/29、11/5は公開講座のため、④と⑤は中止
◆所要時間　約30分
◆当館講堂にて（各回、20分前より開場）
※満席になり次第締切とさせていただきます。
◆先着194名（事前申込み不可）
※聴講は、当日正倉院展へ入館中の方に限らせていただきます。

❖ 第68回 正倉院展 公開講座❖

■10月22日（土）「正倉院宝物の平脱・平文」
木村 法光 氏（元宮内庁正倉院事務所保存課長）

■10月29日（土）「正倉院に納められた銭貨をめぐって」
細川 晋太郎 氏（宮内庁正倉院事務所保存課調査室研究員）

■11月５日（土）「正倉院の荘厳具 ―大幡に寄せて―」
清水　健（当館学芸部工芸考古室長）

【時　間】13:30～15:00（13:00開場）
【会　場】当館講堂（定員194名）

◎公開講座の入場整理券の配布場所が変わりました
＊12:00から当館講堂前にて入場整理券（お１人様につき1枚）を配布します。
＊配布は講座開始30分後で終了します。
＊入場整理券の受け取りの際には、正倉院展の観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

❖ 正倉院学術シンポジウム2016 ❖

「正倉院正倉」

【日　時】11月3日（木・祝）13:00~17:30
【会　場】東大寺総合文化センター　金鐘ホール
【定　員】250名（事前申込制、定員に達し次第締め切り）
【応募方法】
◆往復はがき
◇往信用はがきに、［正倉院学術シンポジウム聴講希望］と明記の上、［氏名・ふりがな・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢］を記入してください。
◇返信用はがきには宛名・住所を記入してください。
◇受付期間　10月1日（土）～10月31日（月）（必着）
◆ホームページ専用申込みフォーム
◇奈良国立博物館ホームページ「講座・催し物」内の「正倉院学術シンポジウム2016」申込み画面より必要事項を入力の上、お申し込みください。
◇受付期間　10月13日（木）～10月31日（月）まで
※往復はがきとホームページ専用フォームでは応募受付の期間が異なりますのでご注意ください。
※応募はいずれかの方法で1人につき1回でお願いいたします。

もっと知りたい！奈良博の魅力

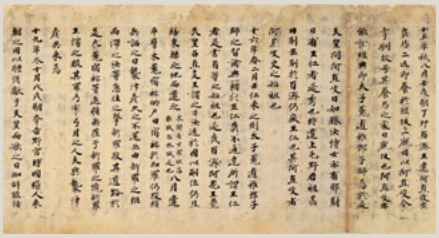
秋の庭園を散策しませんか

当館の隠れた名所、茶室「八窓庵（はっそうあん）」をとりまく庭園を散策しませんか？
秋の紅葉にあわせ、当館ボランティアが見どころを解説しながらご案内いたします。

◆日　　程：11月26日㈯・27日㈰　※雨天中止
◆所要時間：約50分
◆定　　員：各日とも先着30名　※事前申込み不要
◆受付時間：12：00～13：15
（12：15から1組5名程度の少人数で出発）
◆受付場所：なら仏像館入口付近
◆料　　金：無料
※ただし、当日観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。
※ 詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

展示品のみどころ

日本書紀　巻第十（残巻）



国宝
紙本墨書
縦28.0cm　長493.1cm
平安時代（9世紀）
当館

『日本書紀』は、中国で歴代王朝ごとにつくられていた正史（せいし）に範をとり、わが国で最初に編纂された国史で、神代から神武天皇を経て持統天皇（西暦697年退位）の時代までの出来事を漢文で記す。その編纂は天武天皇の時代（在位672～686）に始まり、約40年にわたって断続的に続けられ、養老4年（720）5月に完成して「紀三十巻」と「系図一巻」が奏上された（「系図一巻」は現存しない）。

『日本書紀』の原本は今に伝わらないが、奈良時代の完成当初から歴史書として重視され、平安時代にはしばしば講義が実施されたため、平安時代に遡る写本が少なからず現存する。中でも奈良国立博物館が所蔵する本品は、書風等から9世紀頃の書写と推定される現存最古の写本で、全30巻からなる『日本書紀』のうち、巻第十の大部分、すなわち応神天皇2年3月庚戌条の途中から同41年2月是月条の途中までを収める。その中には、天皇が皇子に書物を読み習わせるため、百済から王仁（わに）（『古事記』では「和迩吉師（わにきし）」）を招いて師としたという著名な記事も含まれている。

写本の文字は端麗な楷書（かいしょ）で、淡墨の界線（かいせん）によって作られた各行に、1行あたりほぼ一定して17字を収める。文中には訓点や校合などの後世の書き入れが一切なく、書写当時の姿をそのまま伝えている。

なお、本品の紙背は弘法大師空海の詩文集『性霊集（しょうりょうしゅう）』の平安時代後期の写本で、序の途中から巻第二の途中までを収める。

野尻　忠（当館学芸部企画室長）

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて
12月10日から平成29年1月9日まで展示

法華説相図（ほっけせっそうず）

国宝
銅造
縦83.3cm　横74.2cm
飛鳥時代～奈良時代（7世紀～8世紀）
奈良　長谷寺

なら仏像館の名品展「珠玉の仏たち」に陳列される仏像は、その半数近くが国宝・重要文化財指定である。本品は、その数ある指定品のうち国宝に指定される一品である。

奈良県桜井市の長谷寺に創建期から伝えられたこの銅製のレリーフ板には「釈迦が霊鷲山で説法していると、地中から宝塔が涌出し、塔内の多宝仏が釈迦を招き入れ二仏が並坐する」という『法華経（ほけきょう）』「見宝塔品（けんぼうとうほん）」の場面が表される。『法華経』の説かれる場所で起こるこの奇瑞は、同経の功徳を視覚的に表した主題として、中国では5世紀～6世紀にかけて盛んに制作されているが、日本での作例は多くなく、日本における法華経信仰の造像として貴重な一例といえる。

本品の下部に刻まれた刻銘には「降婁漆菟（こうるしっと）」（戊年七月）の上旬、僧道明が「飛鳥清御原大宮治天下天皇（あすかきよみはらのおおみやにあめのしたしろしめすすめらみこと）」のために制作したことが記される。制作年代や制作意図が詳しく記され、歴史的に基準となる国宝なのだが、実はこの銘文こそが本品を謎だらけの国宝にしているのである。

「降婁」とはいつか。表されている仏像が童子を思わせるふくよかな体形で、銘文が欧陽詢（おうようじゅん）（557～641：中国唐代の書家）風の書体であることから、これを飛鳥時代後期（白鳳期）の、686年または698年とする説と、銘文中の語句が、白村江の戦い以降、途絶していた遣唐使が帰国する704年以降にならないと使用されないとして、奈良時代、710年以降の作とする説が出されている。また、銘文中の天皇が誰のことかも、解釈によって一致しない。日本上代の彫刻・工芸・書跡を代表する名品でありながら定説を見ないという点で、7世紀から8世紀にかけての白鳳という時代の謎を端的に示す一品とも言えるだろう。今現在、本品はなら仏像館で露出展示されている。この機会に、この白鳳の謎に挑んでみてはいかがだろうか。

岩井 共二（当館学芸部情報サービス室長）

◆なら仏像館 名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時（10月～12月）

■開館時間／午前9時30分～午後5時
・金・土曜日は午後8時まで
・正倉院展会期中（10月22日～11月7日）
　月～木曜日：午前9時～午後6時
　金・土・日曜日・祝日：午前9時～午後8時
※いずれも、入館は閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日
・ただし、10月10日(祝)、11月7日(月)は開館し、10月11日(火)は休館
※正倉院展の会期中は無休

観覧料金　名品展・特別陳列・特集展示

	一　般	大学生	高校生以下
個　人	520円	260円	無　料
団　体	410円	210円	無　料

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。
※団体は20名以上です。
※11月19日(土)、20日(日)（関西文化の日）は、無料観覧日となります。

第68回 正倉院展

	一　般	高校・大学生	小・中学生	親子ペア
個人（当日）	1,100円	700円	400円	―
前売・団体	1,000円	600円	300円	1,100円
オータムレイト	800円	500円	200円	―

※親子ペア観覧券は、一般1名と小・中学生1名がセットになった割引観覧券です。前売りのみで、販売は主要プレイガイド、コンビニエンスストア（一部）に限ります。
※団体は20名以上です。
※オータムレイトチケットは、月～木曜日の午後4時30分以降、金・土・日曜日・祝日の午後5時30分以降に使用できる当日券です。当館当日券売場でのみ、月～木曜日は午後3時30分より、金・土・日曜日・祝日は午後4時30分より販売をします。購入者には記念品を進呈します。
※障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。

〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス（外回り）「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等（有料）をご利用ください。

奈良国立博物館
Nara National Museum

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）ハローダイヤル 050－5542－8600　ホームページ http://www.narahaku.go.jp/